

一七〇年続いた
神社の歴史を
この先の未来にも――



村上藩主内藤家 立藩300周年記念事業

青銅大燈籠 復元へ

ご寄付のお願い

新潟県村上市鎮座

「藤基神社」を

改めて紹介いたします。

家康の異母弟・内藤信成を祀った神社です

藤基神社は、徳川家康の異母弟・内藤信成公をお祀りしている神社です。後世の村上藩主内藤家の不幸（度重なる子の病死）に際し、家祖・信成を祀る霊廟として建てられました。

「権現造」の社殿と荘厳精緻な彫刻が並ぶ建築です

家康を祀る日光東照宮と同じ建築様式である権現造が特徴で、拝殿と本殿が4間（約7m）もの長さのある「石の間」で繋がった構造。社殿は総ケヤキ造で、その落ち着いた風合いが武家屋敷のような重厚感を醸し出しています。名工有磯周齋が1本の木から彫り出した「籠彫り」の見事な彫刻など、さまざまな見どころのある建築です。

〈権現造りの断面図〉



低くなった廊下のような石の間
拝殿から約7m先に本殿があります



小島 盛康
（右）禰宜

昭63年生、平23年に神職階位「正階」拝受。平23年藤基神社禰宜に、平28年に神職階位「明階」拝受。

小島 盛和
（左）宮司

昭26年生、昭52年に神職階位「明階」拝受。平成元年・藤基神社禰宜に、同18年7代目宮司となる。

子供の成長と家の繁栄を願って建てられました

初代村上藩主となる内藤式信は子が続けざまに5人も早世したため、家祖・信成を祀る霊廟・藤基神社を創建し、子供たちの安寧と家の繁栄を祈念しました。そのため現在では安産や子育てにご利益があるとされています。また、武家の神社であること、城主居館から裏鬼門の方角に建てられたことから、開運・勝運の神としても信仰されています。

兄・家康より賜った「内藤十騎」と青銅大燈籠

信成が初めて大名に取り立てられた際に、兄の家康が弟信成のために自身の家臣10人を与えました。この10人の侍を内藤十騎と云い、以降内藤家の重臣となります。

内藤家が村上藩主となったあとは村上藩の家老となり、社殿建立時にはこの家老衆により青銅大燈籠が寄進されました。

令和2年、内藤家村上藩は立藩三〇〇周年を迎えます

初代藩主内藤式信公が村上城主となったのは享保5（1720）年。令和2（2020）年は村上藩主内藤家の立藩から300年の節目の年です。この節目に合わせて、内藤家の想いが寄せられた青銅大燈籠を復活させたく、皆様にご寄付をお願いしております。



戦時中に供出された青銅大燈籠について



かつて社殿前にあった青銅製の燈籠は、高さ約3.3m（台座含）の大型の燈籠です。信成からの重臣・内藤十騎の後胤である村上藩家老衆により寄進されました。戦時中、国策として行った金属回収令により供出され、石造の台座のみが遺されています。

復元へご賛同いただける方は裏表紙をご覧ください。

～信成から村上藩主へのあゆみ～
2020年で立藩300周年を迎えます。

藤基神社では2020年に向け
「村上藩主内藤家 立藩300周年記念事業」として
以下を予定しています。



1

青銅大燈籠の復元

戦時中に供出し失われた
青銅の大燈籠(全長約2m20cm)を
当時のままに復元

2

藤基神社所蔵 御神宝の公開

秘蔵の御神宝として
代々受け継がれている
内藤家ゆかりの品々を特別公開

3

記念式典の開催

記念臨時大祭を斎行するほか
その他各種の慶祝行事を開催します
(詳しくは藤基神社公式サイトをご覧ください)

家康の弟 内藤信成の活躍

徳川家康の
異母弟・内藤信成は
戦での鬼神的な戦いぶりで
名を馳せた。

1720年 内藤家、村上藩主に

5代当主・信成が村上藩主に。
以降明治維新まで
村上には内藤家のもとで
安定した。

1849年 藤基神社 村上に建立

江戸内藤家邸内にあった
藤基神社の分霊を村上へ
遷座し、青銅大燈籠を含む
現在の社殿を建立。

1944年 戦時中 青銅大燈籠を失う

第二次世界大戦時
国策の金属回収令により
青銅大燈籠2基を供出、
台座のみ遺される。

2015年 燈籠復元に向け 活動開始

立藩300周年を目指し
燈籠再建立のための
寄付活動を開始。

一七〇〇年続いた神社の歴史を
この先の未来にも――
「青銅大燈籠」復元にかける願い。

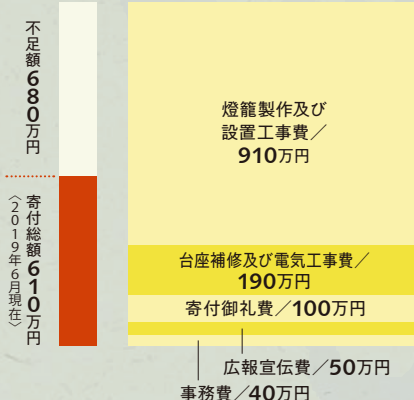
いくら必要なの？

青銅大燈籠を復元させるた
めに約1300万円の費用を
必要としています。
2019年6月の現時点で
610万円のご寄付をいただ
いていますが、目標までにあと
680万円足りません。

なぜ無くなったの？

第二次大戦時の国策で行わ
れた金属回収令により、昭和
19年に国へ供出いたしました。
現在はその名残である石の台
座のみが遺されています。

総額/1,290万円



広報宣伝費/50万円
事務費/40万円



大正6年当時

※当時の写真に色付けしています。

復元した暁には 村上が全国に向けて 誇れる文化財に。

藤基神社の建築

は精巧の妙を極めたもので同じものを二度と作ることはできません。燈籠を供出して75年、遺された台座を見るにつけ、当時の神社の荘厳なる姿に思いを致しこれを復元することは悲願でありました。かつて村上町中の工匠たちの技を結集して神社を建てたように、いま一度青銅大燈籠を皆様の手により復元したいと考えております。

小島盛和

〈宮司〉

当時と同様に復元された際には、1.1mの台座を含めた全長が3.3mになる。



生まれたときにはすでに青銅大燈籠は供出されており、台座だけが遺っている状態でした。戦前の写真で在りし日の美しい神社の姿を見て衝撃を覚えました。社殿の素晴らしい彫刻や意匠と、この美しい燈籠が一体となり目の当たりにできる日を夢見しています。復元の暁には村上が全国に向けて誇れる文化財となるよう、引き続き活動をしていきたいと考えております。

小島盛康

〈禰宜〉

昭和15年の記念行事の様子。大燈籠の大きさが良く分かる。



現在



※当時の写真に色付けしています。

なぜこの大燈籠は「青銅」で造られたの？

石よりも貴重である青銅の燈籠は、より御神体に近い場所へ配されます。家康を祀る上野東照宮でも、配置する燈籠の種類を門の内外で明確に置き分けるなど、青銅燈籠の格式の高さが伺えます。東照宮を模した藤基神社でも同様の理由からこの場所に青銅製の燈籠を配したと云われています。青銅燈籠は新潟県内の神社でも少なく、今の世に復元することは改めて意義があることだと考えています。

青銅大燈籠が復活したら？

藤基神社の社殿は総ヶヤキ造り。1本の木から彫り出す技法「籠彫り」による見事な彫刻*1が建築技術的・美術的にも優れた神社です。

建築当時(170年前)の上棟札が美麗な状態で見つかっており、重要な歴史資料としてご覧いただけます。日光東照宮と同じ権現造*2と相まった社殿の魅力に加え、青銅大燈籠が復活した暁には村上の名所として多くの皆様にご覧いただけます。

現在、藤基神社は村上市の文化財並びに歴史的風致形成建造物に指定されていますが、今回の300周年事業を機会に、県の文化財指定を目指す活動を始めました。

*1 村上の名工で村上木彫堆朱の祖とも言われる有磯周斎の手による代表作。書籍「寺社の装飾彫刻 北海道・東北・北陸編」の寺社百選にも掲載されている。

*2 本殿と拝殿を「石の間」と呼ばれる石畳の廊下で繋いだ特色ある建築様式。東照大権現たる徳川家康がこの様式の社殿に多く祀られたことから権現造と呼ばれ、日光東照宮や北野天満宮に代表される。

寄付の方法

① 神社へ直接お持ちいただく

直接神社へ寄付金をお持ちください。

ご希望の方には社殿内の見学や
ご説明をさせていただきます。

② 銀行・郵便局へお振り込みいただく

挟み込みの振込用紙に必要な事項を
ご記入の上、ご入金ください。

③ WEBページからご入金いただく

藤基神社WEBサイトにて
寄付専用ページをご用意しております。
クレジットカードのご利用も
できるようになっております。



藤基神社

検索

資金がまだまだ足りておりません。
今後も地域の皆様方のご支援・ご協力をいただきながら
燈籠復元のため努力して参る所存でありますので
何卒宜しくお願い申し上げます。

寄付に
関しての
お問合せ



藤基神社

〒958-0837 新潟県村上市三之町11番12号(村上税務署となり)

Tel.0254-52-4781 / Fax.0254-52-4781

寄付御礼品

	金額	芳名帳の 永代保存	限定 御朱印	石の間※ 特別参拝	芳名額を 社殿に掲示	限定大麻の 頒布	社運隆昌祈願祭及び 石の間特別参拝※	燈籠に 刻銘
個人	5千円以上	●	●					
	1万円以上	●	●	●				
	3万円以上	●	●	●	●	●(中)		
	10万円以上	●	●	●	●	●(大)		
	50万円以上	●	●	●	●	●(特大)		
法人 団体	100万円以上	●	●	●	●	●(特大)		●
	10万円以上	●			●	●(大)	●	
	50万円以上	●			●	●(特大)	●	
	100万円以上	●			●	●(特大)	●	●



限定大麻



芳名額



石の間特別参拝

※石の間特別参拝
御本殿に一番近い「石の間」は村上城主に限り許された特別な参拝場所です。今回に限り、特別に石の間での正式参拝を行うことができます。